

国 語

1 高等学校学習指導要領の改訂に向けて（中央教育審議会答申より）

(1) 改善の方向性

ア 現行の学習指導要領の課題

中央教育審議会答申（以下「答申」という。）では、国語科における課題を次のように整理している。

- ・教材への依存度が高く、主体的な言語活動が軽視され、依然として講義調の伝達型授業に偏っている傾向があること
- ・文章の内容や表現の仕方を評価し目的に応じて適切に活用すること
- ・多様なメディアから読み取ったことを踏まえて自分の考えを根拠に基づいて的確に表現すること
- ・国語の語彙の構造や特徴を理解すること
- ・古典に対する学習意欲が低いこと

イ 課題を踏まえた国語科の目標の在り方

答申では、国語科において育成を目指す資質・能力を、言語能力を構成する資質・能力「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱に沿って整理し（答申資料 別添2－1参照）、以下の考え方を示している。

- ・「知識・技能」の「言葉の働きや役割に関する理解」は、自分が用いる言葉に対するメタ認知に関わることであり、言語能力を向上させる上で重要な要素である。このことは、これまでの学習指導要領においても扱われてきたが、実際の指導の場面において十分なされてこなかった。
- ・これからの子どもたちには、創造的・論理的思考を高めるために、「思考力・判断力・表現力等」の「情報を多面的・多角的に精査し構造化する力」がこれまで以上に必要とされるとともに、自分の感情をコントロールすることにつながる「感情や想像を言葉にする力」や、他者との協働につながる「言葉を通じて伝え合う力」など、三つの側面の力がバランスよく育成する必要がある。
- ・より深く、理解したり表現したりするためには、「情報を編集・操作する力」、「新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力」、「新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力」などの「考えを形成し深める力」を育成することが重要である。

これを踏まえ、学校段階ごとに育成を目指す資質・能力を次のとおり示し、学校段階ごとの国語科の教科目標についても、このような資質・能力の整理に基づき示すこととしている。

<p>【高等学校】</p> <p>◎言葉による見方・考え方を働かせ、国語で的確に理解し効果的に表現することを通して、国語に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①生涯にわたる社会生活や専門的な学習に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、多様な他者や社会との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。</p> <p>③言葉を通じて伝え合う意義を認識するとともに、言語文化の担い手としての自覚を持ち、言語感覚を磨き、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	
<p>【小学校】</p> <p>◎言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現することを通して、国語に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①日常生活に必要な国語の特質について理解し使うことができるようにする。</p> <p>②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を養い、日常生活における人との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。</p> <p>③言葉を通じて伝え合うよさを味わうとともに、言葉の大切さを自覚し、言語感覚を養い、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>	<p>【中学校】</p> <p>◎言葉による見方・考え方を働かせ、国語で正確に理解し適切に表現することを通して、国語に関する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>①社会生活に必要な国語の特質について理解し適切に使うことができるようにする。</p> <p>②創造的・論理的思考や感性・情緒を働かせて思考力や想像力を豊かにし、社会生活における人との関わりの中で、言葉で自分の思いや考えを深めることができるようにする。</p> <p>③言葉を通じて伝え合う価値を認識するとともに、言語文化に関わり、言語感覚を豊かにし、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>
<p>【幼児教育】 ※幼児期の終わりまでに育ってほしい姿のうち、特に関係のあるものを記述</p> <p>○ 思考力の芽生え ○ 数量・図形、文字等への関心・感覚 ○ 言葉による伝え合い</p> <p style="text-align: right;">(下線部分は、中学校と高等学校で違いが見られる箇所)</p>	

国語科における教育イメージ（答申資料 別添 2-2 を参考に作成）

(2) 具体的な改善事項

ア 教育課程の示し方の改善

(ア) 資質・能力を育成する学びの過程についての考え方

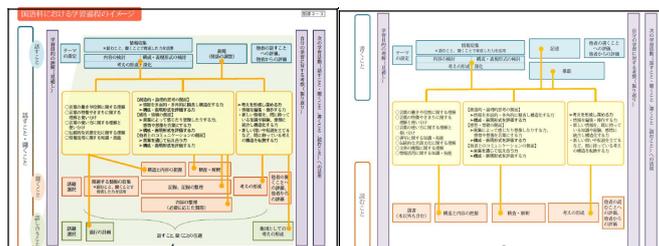
答申では、国語科においては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」のいずれの学習過程においても、「情報を編集・操作する力」、「新しい情報を、既に持っている知識や経験、感情に統合し構造化する力」、「新しい問いや仮説を立てるなど、既に持っている考えの構造を転換する力」を働かせ、考えを形成し深めることが特に重要であり、これらの一連の学習過程を実施する上では、「学びに向かう力・人間性等」が大きな原動力となるとしている。また、これらの過程を意識的に行うことを通じて、より一層「学びに向かう力・人間性等」が生まれ、次の学習活動に向かう意欲が更に高まるなどの正の循環が見込まれるとしている。

(イ) 指導内容の示し方の改善

答申では、学校段階ごとに育成を目指す「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」に基づき教科の「目標」を示すとともに（答申資料 別添 2-2 参照）、子どもたちを社会に送り出すまでに国語科においてどのような力を身に付けることを目指すのかを明確にした上で、小・中・高等学校の教科内容を系統的に示すこととしている。

また、学習指導要領の「内容」に関しては、表 1 に示す育成を目指す資質・能力と、表 2 に示す学習過程を踏まえ、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の 3 領域により明確に示すこととしている。

【表 1】（答申資料 別添 2-1 より）



【表 2】（答申資料 別添 2-3 より）

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_1.pdf

イ 教育内容の改善・充実

(7) 科目構成の見直し

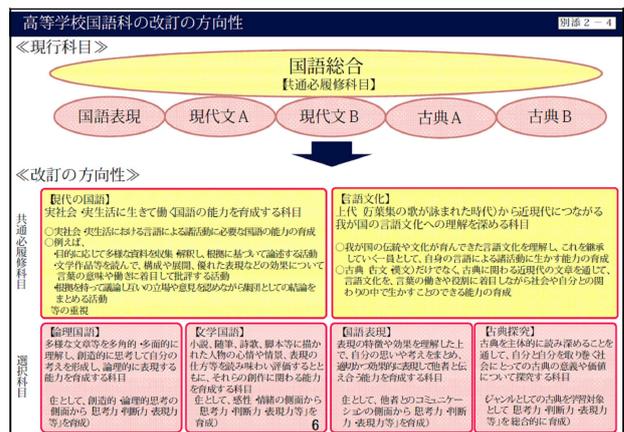
- ・ 共通必修履修科目「現代の国語」は、実社会・実生活に生きて働く国語の能力を育成する科目として、「知識・技能」では「伝統的な言語文化に関する理解」以外の各事項を、「思考力・判断力・表現力等」では全ての力を総合的に育成する。
- ・ 共通必修履修科目「言語文化」は、上代（万葉集の歌が詠まれた時代）から近現代につながる我が国の言語文化への理解を深める科目として、「知識・技能」では「伝統的な言語文化に関する理解」を中心としながら、それ以外の各事項も含み、「思考力・判断力・表現力等」では全ての力を総合的に育成する。
- ・ 選択科目「論理国語」は、多様な文章等を多面的・多角的に理解し、創造的に思考して自分の考えを形成し、論理的に表現する能力を育成する科目として、主として「思考力・判断力・表現力等」の創造的・論理的思考の側面の力を育成する。
- ・ 選択科目「文学国語」は、小説、随筆、詩歌、脚本等に描かれた人物の心情や情景、表現の仕方等を読み味わい評価するとともに、それらの創作に関わる能力を育成する科目として、主として「思考力・判断力・表現力等」の感性・情緒の側面の力を育成する。
- ・ 選択科目「国語表現」は、表現の特徴や効果を理解した上で、自分の思いや考えをまとめ、適切かつ効果的に表現して他者と伝え合う能力を育成する科目として、主として「思考力・判断力・表現力等」の他者とのコミュニケーションの側面の力を育成する。
- ・ 選択科目「古典探究」は、古典を主体的に読み深めることを通して、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の意義や価値について探究する科目として、主に古文・漢文を教材に、「伝統的な言語文化に関する理解」を深めることを重視するとともに、「思考力・判断力・表現力等」を育成する。

(4) 教育内容の見直し

答申では、自ら進んで読書をし、読書を通して人生を豊かにしようとする態度を養うために、小・中・高等学校を通じて読書指導を改善・充実するとともに、我が国の言語文化に親しみ、愛情を持って享受し、その担い手として言語文化を継承・発展させる態度を小・中・高等学校を通じて育成するため、伝統文化に関する学習を重視することが必要であるとしている。

また、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの視点から授業改善に取り組んでいくためには、より一層、言語活動の充実を図り、全ての学習の基盤である言語能力を向上させることが必要不可欠であるとしている。

このため、国語科が、中心的役割を担いながら他教科等と連携して言語能力の向



【表3】（答申資料 別添2-4より）
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/01/10/1380902_3_1.pdf

上を図るとともに、国語科が育成する資質・能力が各教科等において育成する資質・能力の育成にも資することが、カリキュラム・マネジメントの観点からも重要であるとしている。

ウ 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

(ア) 「主体的・対話的で深い学び」の実現

答申では、国語教育の改善・充実を図るためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、次に示すアクティブ・ラーニングの三つの視点に立った授業改善に取り組むことが重要であるとし、言語能力を育成する国語科におけるアクティブ・ラーニングの視点からの授業改善とは、アクティブ・ラーニングの視点から言語活動を充実させ、生徒の学びの過程の更なる質の向上を図ることであるとしている。

○ 「主体的な学び」の視点

「主体的な学び」の実現に向けて、子ども自身が目的や必要性を意識して取り組める学習となるよう、学習の見通しを立てたり振り返ったりする学習場面を計画的に設けること、子どもたちの学ぶ意欲が高まるよう、実社会や実生活との関わりを重視した学習課題として、子どもたちに身近な話題や現代の社会問題を取り上げたり自己の在り方生き方に関わる話題を設定したりすることなどが考えられる。特に、学習を振り返る際、子ども自身が自分の学びや変容を見取り自分の学びを自覚することができ、説明したり評価したりすることができるようになることが重要である。

○ 「対話的な学び」の視点

「対話的な学び」の実現に向けて、例えば、子ども同士、子どもと教職員、子どもと地域の人が、互いの知見や考えを伝え合ったり議論したり協働したりすることや、本を通して作者の考えに触れ自分の考えに生かすことなどを通して、互いの知見や考えを広げたり、深めたり、高めたりする言語活動を行う学習場面を計画的に設けることなどが考えられる。

○ 「深い学び」の視点

「深い学び」の実現に向けて、「言葉による見方・考え方」を働かせ、言葉で理解したり表現したりしながら自分の思いや考えを広げ深める学習活動を設けることなどが考えられる。その際、子ども自身が自分の思考の過程をたどり、自分が理解したり表現したりした言葉を、創造的・論理的思考の側面、感性・情緒の側面、他者とのコミュニケーションの側面からどのように捉えたのか問い直して、理解し直したり表現し直したりしながら思いや考えを深めることが重要であり、特に、思考を深めたり活性化させたりしていくための語彙を豊かにすることなどが重要である。

(イ) 教材や教育環境の充実

国語科の授業が言語活動を通じて資質・能力を育成する授業となるよう、教材の改善・充実を図ることが求められる。次期学習指導要領の趣旨を実現するため、主たる教材である教科書において、授業の中で言語活動が一層充実するような教材提示の在り方や、教員が、当該教材において育成を目指す資質・能力や言語活動を考えるような教材の在り様などが求められる。

また、資質・能力の育成を図るためには、教員養成や教員研修による教員の資質・能力の向上、学校図書館やICT環境の整備・充実などの条件整備が求められる。

2 資質・能力を育成する学習指導と評価の改善・充実

(1) 「北海道高等学校学力向上実践事業」学力テストの分析

ア 学力テスト（Cモデル国語・Bモデル国語・Aモデル国語）の目的

全ての生徒に対し、学力の三要素をはじめとした、これからの時代に求められる力を育成するとともに、高等学校教育の質の確保・向上を図るために、能力・進路等に応じて、対象や目的を明確にした3つのモデルを設定し、各モデルに応じて、生徒の学習内容の定着状況を把握すること。

イ 出題科目

「国語総合」

ウ 分析結果

モデル	出題領域	学習指導要領の指導事項	平成28年度の結果及び傾向
C	話すこと・聞くこと	○ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。	◎ 連絡、説明を聞き取る設問の正答率が85.2%（平成27年度84.2%）と高い。
	書くこと	○ 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。 ○ 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。	◎ 小学生に高校生活を説明するための下書き原稿を作成する設問の正答率が73.7%（平成27年度72.3%）と高い。 ◎ グラフから読み取ることのできる事実を書く設問の正答率が60.0%（平成27年度58.9%）と昨年度に続き上昇傾向。
	読むこと	○ 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。 ○ <u>文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</u>	◎ 文章の構成（段落、展開）を確かめる設問の正答率が75.1%（平成27年度77.3%）と高い。 ◎ <u>古典分野の正答率は40.6%であり、現代文分野の正答率65.6%と比べて低いが、改善傾向にある。</u> 読むことに関する設問及び伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に関する設問について、古典分野の正答率が低い。Bモデルも同傾向。
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● <u>文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。</u>	◎ 返り点、歴史的仮名遣いの正答率がそれぞれ68.3%、74.9%と高いのに対し、文語文法の知識を使った口語訳（「な～そ」の解釈）の正答率が14.4%（平成27年度13.7%）、ことわざの知識を問う設問の正答率が13.1%（平成27年度15.2%）と低い。
B	読むこと	● <u>文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</u> ○ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 ● <u>文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。</u>	◎ <u>古典分野の正答率が、古文32.0%、漢文49.4%と、現代文分野71.3%に比べて低い。</u> ◎ 登場人物の心情を把握する設問の正答率が89.7%（平成27年度78.7%）と高い。 ◎ <u>現代文分野においては、評論文の表題を選ぶ設問、構成等を読み取る設問の正答率が他に比べて低い。</u>
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。 ● <u>文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。</u>	◎ 文脈に適した漢字を選ぶ設問の正答率が77.0%（平成27年度75.0%）と高い。 ◎ <u>古文単語の意味を選ぶ設問の正答率が27.8%（平成27年度27.2%）、漢文の白文に返り点を付ける設問の正答率が29.5%（平成27年度30.2%）と低い。</u>
A	読むこと	● <u>文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。</u>	◎ 傍線部の理由を100字程度で説明する設問において、本文中の表現をそのまま活用できる設問の正答率が49.9%であるのに対し、内容を大づかみにとらえ、本文中の表現を言い換えて表現する設問の正答率が19.9%と低い。 ◎ <u>複数の文章を読み、具体例を自分の言葉で書く設問の正答率が14.8%（平成27年度11.5%）と低く、無回答率は、10.2%と高い。</u>
	書くこと	● <u>論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。</u>	◎ <u>複数の文章の内容を踏まえて、自分の考えを200字～300字で書く設問において、特に自分の考えを論理的にまとめて説得力のある文章にする設問の正答率が17.4%と低い。また、無回答率が10.6%と高い。</u> 文章から読み取ったことについて、自分の考えを論理的にまとめて書くことに課題がある。
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	● <u>常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。</u>	◎ <u>文脈に即して適切な常用漢字を書く設問の正答率が38.8%と低い。特に「処遇」（正答率19.0%）、「台頭」（正答率23.5%）、「招来」（正答率23.0%）の正答率が低い。</u>

「学習指導要領の指導事項」●：十分に身に付いていないと考えられる指導事項 ○：成果が見られた指導事項

エ 学力テストの結果を踏まえた改善の方向

学力テストの結果から明らかになった各領域における課題について、上記ウの分析結果及び2(3)に示す「主体的・対話的で深い学び」の実践例を参考にするなどして、各学校の実態に即した指導の改善を図る必要がある。

課題となる内容は昨年度と同様、次の2点である。

- ① 「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の古典分野
- ② 「書くこと」のうち、自分の考えを論理的にまとめて書くこと

①について、古典を読み味わうためには、古典を理解するための基礎的・基本的な知識及び技能を身に付けていなければならないが、従来その指導を重視し過ぎるあまり、多くの古典嫌いを生んできた。指導においては、古典の原文のみを取り上げるのではなく教材にも工夫を凝らしながら、古人のものの見方、感じ方、考え方に触れ、それを広げたり深めたりする授業を実践し、まず、古典を学ぶ意義を認識させ、古典に対する興味・関心を広げ、古典を読む意欲を高めることを重視する必要がある。

②について、説得力のある文章を書き、自らの考えを相手に納得させ、同意や共感を得るように、論理の構成や展開を工夫する必要がある。

また、書き手が自らの思考の進め方を整理し、文章を論理的に組み立てるとともに、客観性や信頼性の高い資料を用いて、自らの論が成り立つ根拠を示す必要がある。

このように文章を書き綴る中で、自分の考えがまとまっていき、更に緻密なものや確固としたものになっていくことを、生徒に実感させることも大切である。

(2) 学習指導の改善・充実を図るための教科研修の例

ア 学習指導の改善・充実を図るために

答申では、国語教育の改善・充実を図るために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、アクティブ・ラーニングの三つの視点に立った授業改善に取り組んでいくことの重要性を指摘している。

イに示す教科研修の例は、独立行政法人教職員支援機構が作成した、主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の質的改善により実現したい生徒の姿のピクトグラム一覧を手掛かりに、生徒の姿と授業者の手立てを分析・整理した後、生徒の学びを深めるために授業者ができることについて協議を行うというものである。

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
興味や関心を高める	互いの考えを比較する	思考して問い続ける
見通しを持つ	多様な情報を収集する	知識・技能を習得する
自分と結び付ける	思考を表現に置き換える	知識・技能を活用する
粘り強く取り組む	多様な手段で説明する	自分の思いや考えと結び付ける
振り返って次へつなげる	先哲の考え方を手掛かりとする	知識や技能を概念化する
	共に考えを創り上げる	自分の考えを形成する
	協働して課題解決する	新たなものを創り上げる

独立行政法人教職員支援機構ウェブページより

<http://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jir/ei/pictogram.html>

国語科において「深い学び」を実現するためには、「言葉による見方・考え方」を働かせることが鍵となる。生徒が「言葉による見方・考え方」を働かせ、「深い学び」を実現するために、授業者としてどのような指導の工夫ができるかという視点から協議を行うことが重要である。

○ 言葉による見方・考え方

自分の思いや考えを深めるため、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉え、その関係性を問い直して意味付けること。

イ 教科研修の例

国語科 の目標	国語を適切に表現し、確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。	
ねらい	校内の国語科教員の授業風景を撮影した動画を活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善の視点について理解を深める。	
時間	60分	参加者 12名 4人×3グループ
時刻	内 容	備 考
5分	1 本日の教科研修のねらい、研修の流れの説明 ○ 事例提供者の授業風景を撮影したDVDを参加者全員で視聴した後、生徒の学びをより深めるために教員はどのようなことができるかをテーマに話し合う。 ○ 「生徒の学び」の深まりに着目し、その実現のために教員はどのようなことができるか話し合うことを説明する。	※参考資料「『主体的・対話的で深い学び』を実現する子供の姿」を参照する。
10分	2 DVD視聴（授業の導入と展開の一部） ○ 参加者は、DVDを視聴しながら、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの学習過程の質的改善により実現したい生徒の姿』のピクトグラム一覧を手掛かりに、黄色の付箋紙に「主体的・対話的で深い学び」につながる生徒の姿、ピンクの付箋紙にそのような生徒の学びを支える教員の手立てを書く。	※教員は、必要に応じて補足する。 ※参加者は、授業を批判的に視聴するのではなく、今後の自分の授業改善に生かす視点で視聴する。
3分	3 DVD視聴後、『主体的・対話的で深い学び』の視点からの学習過程の質的改善により実現したい生徒の姿』と「そのような生徒の学びを支える教員の手立て」の整理【個人】 ○ DVD視聴中に書いた黄色、ピンクの付箋紙を用いて分析・整理する。	
5分	4 「生徒の学びを深めるためのアイデア」の発案【個人】 ○ DVDの授業者の立場に立って、生徒の学びを深めるために教員はどのようなことができるかについて青色の付箋紙に書き出す。	
20分	5 3、4の共有と協議【グループ】（共有：2分×4名+協議：12分） ※出されたアイデアを模造紙に貼り付け、グループ化するなどして、協議する。	
12分	6 全体交流（4分×3グループ） ○ 特にポイントになると考えられる点と、そう考える理由について各グループから発表し、交流する。	
5分	7 まとめ ○ 「深い学び」の実現には、「言葉による見方・考え方」を働かせることが鍵となるため、生徒が、言葉の意味、働き、使い方等に注目して、対象と言葉、言葉と言葉の関係を、根拠を持って意味付けることができるように支援する方向でまとめる。	※凡例 
<p>【配付物】 ○DVD「マイクロ・ディベート」国語総合「マイクロ・ディベート」① 国語総合「マイクロ・ディベート」② ○学習指導案 ○付箋紙大（黄色、ピンク、青色）：一人20枚 ○模造紙1/2大：各グループ1枚（計3枚）</p> <p>【参考資料】 ○「『主体的・対話的で深い学び』の視点からの学習過程の質的改善により実現したい生徒の姿」（独立行政法人教職員支援機構ウェブページ http://www.nits.go.jp/jisedai/achievement/jirei/pictogram.html)</p>		

(3) 「主体的・対話的で深い学び」の実践例

ア 単元における指導と評価の計画の例

1	単元名	出典を明示して文章や図表などを引用し、説明や意見などを書こう。																					
2	単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめようとする。(関心・意欲・態度) ・論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめることができる。(書く能力) ・書くことに必要な文章の組立てを理解する。(知識・理解) 																					
3	取り上げる言語活動と教材	<p>(1) 言語活動 統計資料等を用いた文章の表現の特色を踏まえて、説得力のある文章を書くこと。</p> <p>(2) 教材 香山リカ「空気を読む」(『精選国語総合新訂版』大修館書店)、辻大和「シカの『落ち穂拾い』」―フィールドノートの記録から(『国語1 中学校国語科用』光村図書)、文化庁「平成27年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」(http://www.bunka.go.jp/tokei_hakusho_shuppan/tokeichosa/kokugo_yoronchosa/pdf/h27_chosa_kekka.pdf)</p>																					
4	単元の具体的な評価規準	<table border="1"> <thead> <tr> <th>関心・意欲・態度</th> <th>書く能力</th> <th>知識・理解</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示そうとしている。</td> <td>自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示している。</td> <td>段落を設けることは、自分の思考を整理して展開し、述べたい内容を効果的に表現することになることを理解している。</td> </tr> </tbody> </table>	関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解	自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示そうとしている。	自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示している。	段落を設けることは、自分の思考を整理して展開し、述べたい内容を効果的に表現することになることを理解している。	<p>本単元においては、「書く能力」の育成を目指し、統計資料等を用いた文章の表現の特色を生徒自身に理解させた後、それらを踏まえて統計資料等を用いた文章を作成するという学習活動を設定している。(関連する学習指導要領の指導事項 「国語総合」内容「B 書くこと」(1)のイ)</p>														
関心・意欲・態度	書く能力	知識・理解																					
自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示そうとしている。	自分の考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用い、自らの論が成り立つ根拠を示している。	段落を設けることは、自分の思考を整理して展開し、述べたい内容を効果的に表現することになることを理解している。																					
5	単元の指導計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>次</th> <th>学 習 活 動</th> <th>言語活動に関する指導上の注意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1次</td> <td>・「空気を読む」と「シカの『落ち穂拾い』」を読み比べて、統計資料等を用いた文章の表現の特色をおおまかにつかむとともに、学習の見通しを持つ。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・実際に統計資料等を用いた文章を書くという目標を提示する。 <p>「主体的な学び」を実現する生徒のイメージ：見通しを持つ</p> </td> </tr> <tr> <td>第2次</td> <td>・提示した2つの文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容や表現の仕方について客観的に評価できるよう、規準や根拠を提示する。 </td> </tr> <tr> <td>第3次</td> <td>・グループに分かれて、2つの文章の統計資料等と関連した叙述をそれぞれ読み、統計資料等の役割について考える。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・拡大した統計資料等や付箋紙を配付し、統計資料等から読み取れることを可視化してグループ内で共有するよう指示する。 <p>「深い学び」を実現する生徒のイメージ：知識・技能を活用する</p> </td> </tr> <tr> <td>第4次</td> <td>・伝えたい事実や事柄について、統計資料(「平成27年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」)を基に自分の考えを文章にまとめる。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「対話的な学び」を実現する生徒のイメージ：思考を表現に置き換える </td> </tr> <tr> <td>第5次</td> <td>・グループ内で、作成した文章を紹介し合い、「統計資料等を効果的に活用しながら、自分の考えを分かりやすく伝えるポイント」について話し合う。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの考えを短冊に簡潔に記して全体で交流し、クラス全体で各グループの考えを整理する。 </td> </tr> <tr> <td>第6次</td> <td>・説明的的確さと説得力の有無の観点から、作成した文章を各自で推敲し、学びを振り返る。</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の記述を見つめ直す場を設定し、自己の変容に気付かせる。 <p>「主体的な学び」を実現する生徒のイメージ：振り返って次につなげる</p> </td> </tr> </tbody> </table>	次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の注意点	第1次	・「空気を読む」と「シカの『落ち穂拾い』」を読み比べて、統計資料等を用いた文章の表現の特色をおおまかにつかむとともに、学習の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に統計資料等を用いた文章を書くという目標を提示する。 <p>「主体的な学び」を実現する生徒のイメージ：見通しを持つ</p>	第2次	・提示した2つの文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容や表現の仕方について客観的に評価できるよう、規準や根拠を提示する。 	第3次	・グループに分かれて、2つの文章の統計資料等と関連した叙述をそれぞれ読み、統計資料等の役割について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した統計資料等や付箋紙を配付し、統計資料等から読み取れることを可視化してグループ内で共有するよう指示する。 <p>「深い学び」を実現する生徒のイメージ：知識・技能を活用する</p>	第4次	・伝えたい事実や事柄について、統計資料(「平成27年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」)を基に自分の考えを文章にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的な学び」を実現する生徒のイメージ：思考を表現に置き換える 	第5次	・グループ内で、作成した文章を紹介し合い、「統計資料等を効果的に活用しながら、自分の考えを分かりやすく伝えるポイント」について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの考えを短冊に簡潔に記して全体で交流し、クラス全体で各グループの考えを整理する。 	第6次	・説明的的確さと説得力の有無の観点から、作成した文章を各自で推敲し、学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の記述を見つめ直す場を設定し、自己の変容に気付かせる。 <p>「主体的な学び」を実現する生徒のイメージ：振り返って次につなげる</p>
次	学 習 活 動	言語活動に関する指導上の注意点																					
第1次	・「空気を読む」と「シカの『落ち穂拾い』」を読み比べて、統計資料等を用いた文章の表現の特色をおおまかにつかむとともに、学習の見通しを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に統計資料等を用いた文章を書くという目標を提示する。 <p>「主体的な学び」を実現する生徒のイメージ：見通しを持つ</p>																					
第2次	・提示した2つの文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりする。	<ul style="list-style-type: none"> ・文章の内容や表現の仕方について客観的に評価できるよう、規準や根拠を提示する。 																					
第3次	・グループに分かれて、2つの文章の統計資料等と関連した叙述をそれぞれ読み、統計資料等の役割について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・拡大した統計資料等や付箋紙を配付し、統計資料等から読み取れることを可視化してグループ内で共有するよう指示する。 <p>「深い学び」を実現する生徒のイメージ：知識・技能を活用する</p>																					
第4次	・伝えたい事実や事柄について、統計資料(「平成27年度『国語に関する世論調査』の結果の概要」)を基に自分の考えを文章にまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「対話的な学び」を実現する生徒のイメージ：思考を表現に置き換える 																					
第5次	・グループ内で、作成した文章を紹介し合い、「統計資料等を効果的に活用しながら、自分の考えを分かりやすく伝えるポイント」について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・グループの考えを短冊に簡潔に記して全体で交流し、クラス全体で各グループの考えを整理する。 																					
第6次	・説明的的確さと説得力の有無の観点から、作成した文章を各自で推敲し、学びを振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の記述を見つめ直す場を設定し、自己の変容に気付かせる。 <p>「主体的な学び」を実現する生徒のイメージ：振り返って次につなげる</p>																					

イ 課題の解決に向けた取組

学力テスト（Aモデル国語）の結果から、「書くこと」に関して、文章から読み取ったことについて、自分の考えを論理的にまとめて書くことに課題が見られた。

前ページに示した単元の指導計画は、単元の目標を「論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめることができる。（書く能力）」とし、統計資料等を用いた複数の文章を読み比べることで、統計資料等を用いた文章における表現の特色をとらえた後、それらを踏まえて実際に文章を書くという一連の学習活動で構成している。「論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめる」とは、自分の考えが確実な根拠に支えられ、前後矛盾することなく論理的に展開された文章を書くことである。そこでは、考えの妥当性を裏付ける、客観性や信頼性の高い資料を用いて、自らの論が成り立つ根拠を示すことが必要になる。このことは、書く能力を身に付けさせる学習では極めて重要である。

(4) 義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための指導例

現行の学習指導要領においては、指導計画の作成に当たって配慮すべき事項として、学校や生徒の実態等に応じて義務教育段階の学習内容の確実な定着を図るための指導を行うことと示している。

ここでは、古典の一節を引用するなどして、古典に関する簡単な文章を書かせることを通して、伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項についての知識や理解を身に付けさせる取組例を示す。

1	単元名 『万葉集』や『古今和歌集』の和歌を鑑賞して文章を書こう～資料を引用して書く～	
2	単元の目標 ・ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書こうとしている。 (関心・意欲・態度) ・ 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことができる。 (書く能力) ・ 和歌の一部を引用しながら、鑑賞したことを文章に書いている。(知識・理解)	
3	取り上げる言語活動と教材 (1) 言語活動 『万葉集』や『古今和歌集』の中から関心のある和歌を選び、鑑賞したことを文章に書くこと。 (2) 教材 『万葉集』や『古今和歌集』	
4	単元の指導計画	
	次	言語活動に関する指導上の注意点
	第1次	○ 学習の見通しをもつ。 ・ 『万葉集』や『古今和歌集』の和歌とそれについて解説している文章を探して読み、情景等を想像するとともに、現代の人々のものの見方や考え方と比較しながら自分なりの考えをもつ。
	第2次	○ 自分が選んだ和歌に表れているものの見方や考え方について他の人がどう思うのか、相互に取材する。
	第3次	○ 論理の展開を工夫し、自分が選んだ和歌について鑑賞したことを、和歌の言葉を引用しながら文章に表す。
	第4次	○ 書いた文章をグループで読み合い、論理の展開の仕方や表現の仕方などについて評価する。
		○ 鑑賞文を書くために、他の人のものの見方や考え方を捉えさせ、参考にさせる。 ○ 和歌については教員が提示するが、それを解説している文章は、学校図書館などを利用して生徒に探させる。 ○ 自分が述べたいことに応じて適切な部分を引用することを確認させる。 ○ 古典を読んで様々なことを感じていることを確認させる。

